

第6講座 古文

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

① いづくにもあれ、しばし旅立ちたるこそ、目覚むる心ちすれ。

そのわたり、ここかしこ見歩き、② ゐなかびたる所、山里などは、いと

目なれぬことのみぞ多かる。

都へ便求めて文やり、「そのこと、かのことかの便宜に忘るな」など言

ひやりたるこそをかしけれ。

⑤ さやうの所にてこそ、万に心づかひせられ、持てる調度まで、よきは

よく、能ある人、かたちよき人も、常よりはをかしと見ゆれ。

寺、社などに忍びて籠りたるも、をかし。

（『徒然草』より第十五段）

（現代語訳）

どこでもよい、しばらくよそで泊まったりするのこそ、目が覚めるよ

うな 心地がするものだ。

そのあたり、ここあそこを見て回り、ひなびたところ、山里などは、

たいそう見なれないことが多くあるものだ。

都へつてをさがしては手紙を送り、「そのこと、あのことあのついでに

忘れないように」などと言い送るのは趣がある。

そんなところでこそ、万事につけ自然に気づかいされ、持っている道

具類まで、上等な物は上等に、技芸の才能のある人、器量のいい人も、

ふだんよりは見事だと感じられる。

寺や神社などに人目を避けて泊まって祈念するのも、趣がある。

問一 「徒然草」の作者を次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 清少納言 イ 吉田兼好

ウ 紫式部 エ 松尾芭蕉

問二 線①「いづく」、②「ゐなかびたる」、⑤「さやう」の読み方

を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

① _____ ② _____

⑤ _____

③ _____

④ _____

問三 線③「文」、④「をかしけれ」、⑥「かたち」の意味を現代語

訳の中から書き抜きなさい。

③ _____ ④ _____

⑥ _____

⑦ _____

⑧ _____

問四 線①「ひなびたところ、山里など」とありますが、筆者はふ

び、記号で答えなさい。

ア 恥ずかしい イ 退屈な

ウ おそろしい エ 新鮮な

問五 線⑦「ひなびたところ、山里など」とありますが、筆者はふ

だんはどこにいますか。現代語訳の中から書き抜きなさい。

次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

これも今は昔、南京の永超僧都は、魚なきかぎり、時、非時もすべて食はざりける人なり。公請つとめて、在京のあひだ、ひさしくなりて、魚を食はで、くづはれてくだるあひだ、奈島の丈六堂の辺にて、昼破子食ふに、弟子一人、近辺の在家にて、魚をこひてすすめたりけり。

件の魚のぬし、後には夢に見るやう、おそろしげなる物ども、その辺の在家をしるしけるに、我家をしるしのぞきければ、たづぬる処に、使のいはく、

「永超僧都に魚たてまつる所也。さて、しるしのぞく」といふ。

その年、この村の在家、ことごとく、えやみをして、死ぬるものおほかり。此魚のぬしが家、ただ一字、その事をまぬかる。よりて僧都のものとへ参りむかひて、このよしを申。僧都、此よしを聞て、かつけ物一重、たびてぞかへされける。

(現代語訳)

これも[]、南の京(奈良)の永超僧都は、魚がない限りは、午前の食事、午後の食事すべて食べなかった人である。朝廷の法会の講師を務めて京都にいる期間が長くなって、魚を食べないで衰弱して戻る途中、奈島の丈六堂のあたりで、昼食の弁当を食べるときに、弟子の一人が、近くにある家で、魚を求め勧めた。

その魚の主のちに夢に見ることに、おそろしげな者どもが、そのあたりの家に印をつけたのに、自分の家に印をつけなかったので、尋ねたところ、使いが言うことには、

「永超僧都に魚を献上したところである。そういうわけで、印をつけない」と言う。

その年、この村の家、ことごとく疫病にかかって、死ぬ者が多かった。

(『宇治拾遺物語』より巻四の十五)

この魚の主の家は、ただ一軒そのことをまぬがれた。それで僧都のもとに参上して、この事情を申し上げた。僧都はそのいきさつを聞いて、ほうびを一着お与えになつて、帰された。

問一 線①「すすめたりけり」とありますが、だれに何を勧めたのですか。次の[]にあてはまる言葉を文中から書き抜きなさい。

[] に、献上された [] を勧めた。

問二 線②「夢に見るやう」とありますが、夢に見た内容が書かれているのはどこまでですか。古文中から終わりの五字を書き抜きなさい。

[]

問三 [] にあてはまる言葉を書きなさい。

問四 線③「そのこと」とは、どんなことですか。

問五 この文章の内容に合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 永超僧都に魚を献上した主は、僧都を悪い者どもから守った。
イ 永超僧都に魚を献上した主は、僧都に代償を求めた。
ウ 永超僧都に魚を献上した家には、大変よいことが起きた。
エ 永超僧都に魚を献上した家には、僧都のところから使いがきた。

練習問題

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

かぐや姫のうわさを聞いて、多くの男が求婚にやってきたが、姿を見ることもできない。

人の物ともせぬ所にまといありけども、なにの験あるべくも見えず。

家の人どもに物をだに言はんとて、言ひかかれども、ことどもせず。あたりをはなれぬ君達、夜をあかし、日をくらす、多かり。おろかなる人は、「用なきありきは、よしなかりけり」とて、来ず成にけり。

其中に、なほ言ひけるは、色好みといはるるかぎり五人、思ひやむ時なく、夜昼来ける、その名ども、石作の御子・くらもちの皇子・右大臣阿倍のみむらじ・大納言大伴の御行・中納言石上の麻呂足、此人々なりけり。

世中に多かる人をだに、すこしもかたちよしと聞きては、見まほしうする人どもなりければ、かぐや姫を見まほしうて、物もくはず思ひつつ、かの家に行きて、たたずみありきけれど、かひあるべくもあらず。文を書きてやれども、返事もせず。わび歌など書きておこすれども、かひなしと思へど、霜月・師走の降りこほり、水無月の照りはたたくにも、障らず来たり。

この人々、ある時は、竹取をよび出て、「娘を、吾に賜べ」とふし拝み、手をすりのたまへど、

「をのが生さぬ子なれば、心にも従はずなんある」

と言ひて、月日過ぐす。かかれば、この人々、家にかへりて、物を思ひ、祈りをし、願を立つ。思、やむべくもあらず。「さりとて、つひにを」とこ婚はせざらむや」と思ひて、頼みをかけたり。あながちに、心ざしを

見えありく。

(『竹取物語』)

- * 1 まといありけども さまよい歩いたが。
- * 2 君達 貴公子たち。
- * 3 おろかなる人 あまり熱心でない人たち。
- * 4 用なきありきは、よしなかりけり 無用の歩き回りは無駄だった。
- * 5 言ひけるは 言い寄ったのは。
- * 6 色好み 恋の道の達人。
- * 7 見まほしうする 妻にしたいと思う。
- * 8 たたずみありきけれど ちこち場所を変えて立ちつくすが。
- * 9 わび歌 思いの苦しさを訴える歌。
- * 10 降りこほり 雪が降り氷がはるときにも。
- * 11 照りはたたくにも 太陽が照りつけ雷が鳴りひらめくのものにも。
- * 12 賜べ ください。
- * 13 心にも従はずなんある 私の意見にも従わないのです。
- * 14 つひに 最後まで。
- * 15 婚はせざらむやは 結婚させないことがあろうか。
- * 16 あながちに 無理算段をして。
- * 17 心ざしを見えありく 思いの深さを見せつけるように歩き回る。

問一 線 A 「なほ言ひけるは」、B 「見まほしうて」、C 「のたまへど」の読み方を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

A

C B

問二 線 a「こととせす」、b「返事もせず」、c「来たり」、d「言ひて」の動作主として最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 求婚者たち イ 竹取の家の人たち
ウ 竹取 エ かぐや姫

a b c d

問三 線①「だに」は、軽いものを挙げて、より重いものを類推させる言葉ですが、ここで(1)軽いもの、(2)重いものとは、それぞれ何ですか。現代語で書きなさい。

(1) (2)

問四 線②「かひ」と同じことを意味する言葉をここより前の文中から一字で探し、書き抜きなさい。

問五 線③「霜月」、④「師走」、⑤「水無月」は、それぞれ陰暦の何月ですか。

③ ④

⑤

問六 この古文を現代語訳する際に、線⑥「月日」、⑦「この人々」、⑧「を」とこのあとに助詞を補うとわかりやすくなります。それぞれ適当なひらがな一字で答えなさい。

⑥ ⑦ ⑧

問七 線⑨「あながちに、心ざしを見えありく」とありますが、これは何をしているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 腹を立てて、怒りをぶつけている。
イ 望みを捨てないで、自分を売り込んでいる。
ウ 思いを断ち切って、別れのあいさつをしている。
エ 苦しみが高じて、自分を辱めようとしている。

問八 この文章の内容と合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 竹取は、貴公子たちの思いがどの程度のものであるか、確かめようとした。
イ かぐや姫は、家の人たちを通じて、貴公子たちの求婚をすべて断った。
ウ 貴公子たちはなかなかかぐや姫に会えず、代表者五人を送り込むことにした。
エ 貴公子たちはさまざまな手を使ってかぐや姫に近づこうとしたが、だれも成功しなかった。